

GFPC 開催報告（1）：Green, Growth & Beyond をテーマに舞浜で開催 超臨場感ディスプレイの世界が FPD 産業の未来を切り開く

GFPC2010（第6回 Global FPD Partners Conference）が、千葉県舞浜で、4月8,9日の2日間開催された。今回の会議のメインテーマは、「Green, Growth & Beyond –For the Future of the FPD Industry–」である。前回の会議テーマであった”Green & Growth”に、さらに”Beyond”を付け加えたテーマの元で、ディスプレイ産業に定着した Green 化の流れの中、FPD 産業の新しい方向性を模索するための講演と討議が行われた。

今回の参加者は、韓国、台湾、中国、米国など海外からの34名を含めた136名である。業界を牽引する企業の経営者やキーパーソンが集う本会議では、例年、FPD の新技術や応用分野、さらには産業をとりまく事業環境など、広範囲なテーマに焦点を当て、経営層に向けた多角的なテーマと議論の場が提供されてきた。今回も、FPD 産業の継続的な発展を見据えた内容の濃い議論と共に、2日間昼夜を共にした密なコミュニケーションによる人脈の構築によって、参加者にとって、視野を広げ、今後のビジネスを広げていく為のヒントとなる多くの情報が提供された。

業界のキーパーソンが集う GFPC2010 の会場風景



オープニング・キーノート

オープニングでは、Samsung Electronics 社長 Wonkie Chang 氏によるキーノート講演「LCD Industry's Next Growth Momentum」が行われた。本会議では、自由な意見を述べて頂くため原則非公開としており、講演の詳細内容を活字にはできないが、会議テーマ「Green, Growth & Beyond –For the Future of the FPD Industry–」をそのまま表すような Samsung Electronics 社の力強い成長戦略を語って頂く事ができ、会議の参加者に、本会議の趣旨を覚醒させるに十分な内容であった。

参加者に力強いメッセージを発信する Wonkie Chang 氏



超臨場感映像の創り出す感動と夢の世界

今話題の 3D を中心とした超臨場感に関する内容は、本会議の目玉セッションである。3D 映像を含めた超臨場感映像の世界が身の廻りの空間に浸透していく姿を、米国 RealD 社の長谷互二氏によるキーノート講演とその後のパネルディスカッションからイメージすることができた。

超臨場感とは、ディスプレイ上の世界が、いま自分がいる現実の世界と同じ環境として知覚され、現実の世界と画面上の世界がシームレスにつながっている状況になる。そのためには、大画面、高精細、3D の 3 つの要素が必要になってくる。これまでのディスプレイの歴史の中で、大画面、高精細が実現されてきた。そして今、3D が大きく花咲こうとしている。2009 年は 3D 映画がヒットし、2010 年は 3D の民生元年になると期待されている。この 3D の普及を本物にし、超臨場感の世界を構築していくためには、まだ多くの課題がある。

立体視用メガネの必要性の有無や、ハードウェアとしてのディスプレイ技術の進歩もまだまだ必要であるが、それ以上にコンテンツの重要性が強調された。それは、画像の安全性とも言うべきものであり、疲労など人体への影響を生じさせない映像の作り方が大切である。3D を一過性のブームに終わらせないためには、映像の作り方などの標準化が重要であるとの意見が多くのパネラーから提案された。

グローバル化するディスプレイ製造を考える

本会議に参加した企業経営者の方々からは、「グローバル化しているディスプレイ産業にどのように対応して行けば良いのか、そのヒントを得るために来た」と話される方が多くいらした。本会議では、ディスプレイ産業を取り巻く様々な状況を知るために、ディスプレイ産業そのものとは異なる角度からの情報も多く提供され、今後の経営判断に役立ったという声が多く聞かれた。

IMAnet 社の 八木博氏による「米国スマートグリッド事情、世界標準となるのか?」、デロイトトーマツコンサルティング社の八子知礼氏による「クラウドコンピューティング時代のデバ

イス」、メリルリンチ日本証券の吉川雅幸氏による「グローバル・エコノミー」、日産自動車の上純二氏による「グローバル生産戦略」など、日々の業務では聞くことのできない内容は、新しい発想を生み出す為の良い刺激となった。

また、最近大きな注目を浴びているディスプレイ市場と製造の中国展開に関して、China Video Industry Association の Hao Ya-Bin 氏から、「Strategy of China TFT Industry Development」、Shanghai Tianma Micro-electronics 社の Tieer Gu 氏から「The Challenges and Opportunities of China's FPD Industry」のキーノート講演も行われ、普段はなかなか明らかにされない中国の中の状況が紹介され、FPD の中国展開に関する直接的な情報が提供されたことは、参加者の目的にかなうものであった。

有機エレクトロニクスの未来

この他に、注目されているディスプレイ技術である有機 EL ディ스플레이の発展系としての有機エレクトロニクス（有機 EL 照明、有機 TFT や有機太陽電池）に関するキーノート講演および関連の講演も行われた。

山形大学の城戸淳二教授による「有機エレクトロニクスの未来」、Samsung Mobile Display 社の H. K. Chung 氏による「AMOLED, the Ultimate Display of the Dream Society」、岐阜大学の吉田司准教授による「カラフルプラスチック太陽電池の研究開発」、三菱化学の山岡弘明氏による「有機薄膜太陽電池の開発と今後の展開」の各講演内容は、ディスプレイ応用だけでなく、有機エレクトロニクスへと広がるアプリケーションに対する知見を大所高所から判断することができる内容であった。

また、今後の大きな発展が期待されている電子ペーパーに関しても、台湾 Delta 社の Hui Lee 氏から「Growth in Future e-Paper Business」の講演があり、Bridgestone 社の技術を使ったパッシブ型の電子ペーパーの講演があり、台湾内で積極的に進められている電子ペーパーの事業化の一端をのぞくことができた。

ビジネスに不可欠なコミュニケーションを構築

GFPC で毎回行われているユニークなセッションに、Executive Round Table や Speaker Corner などの、直接のコミュニケーションの場がある。参加者が、講演者や業界のキーパーソンを交えた小グループのテーブルに別れ、一つのテーマに対して互いに自由なディスカッションを行う場である。結論を出すことを目的とせず自由な議論を行うという主旨であり、互いの意見の中から得るものも多い。

日本、韓国、台湾、中国のパネルメーカートップの方々や業界関係者も交えた直接のコミュニケーションの場は、今後のビジネス展開に重要な人間関係や、直接の情報を得ることができたとの参加者の声を多く聞くことができた。



脱クリスタルサイクルを目指したビジネス戦略

2日間の議論を締めくくるグランドフィナーレでは、日経BP社の望月洋介氏のモデレートの元で、シャープの水嶋繁光氏、Samsung ElectronicsのJun H. Souk氏、パナソニックの香島光太郎氏、LG DisplayのI. J. Chung氏のパネルメーカー4名に加えて、Applied MaterialsのI. D. Kang氏、CorningのLisa Ferrero氏も入り、FPDの技術と産業動向に関する熱い議論が行われた。

産業の現状認識から始まり、今後のFPDテレビのコア技術となる3Dやパーソナル端末、デジタルサイネージなどを含めた未来のディスプレイ環境に対する展望を各パネラーが熱く語った後、今後のクリスタルサイクルの行方についてディスカッションが行われた。

パネルメーカーの戦略や、装置メーカー、部材メーカーの立場などから、各パネラーの意見は微妙に異なるものの、総じて「クリスタルサイクルの幅は小さくなって行くであろう」という楽観的な意見が多かった。この背景には、これまでの数々の経験を糧にして、業界全体が賢くなってきているという判断である。

白熱した内容で、2時間という時間があっという間に過ぎてしまった。最期にモデレーターの望月氏が「FPD産業はやっとブラウン管を置き換えた。これからが本当の発展の段階であり、様々な用途で世界中に市場を作り出していく時代に入っていく」とまとめ、議論を終えた。

将来の継続的な成長を語りあう Grand Finale のパネラー

